

平成29年度第2回京都市図書館協議会摘録

- 日 時：平成30年3月2日（金）
午前10時～11時30分
- 場 所：京都市生涯学習総合センター 3階第4研修室
- 出席委員：〔10名中7名出席〕
- 石川 一郎 委員
岩佐 恭子 委員
岩崎 れい 委員
郭 昊 委員
梶川 敏夫 委員
河本 歩美 委員
鈴木 美和 委員（五十音順）
- 欠席委員 柳田 典子 委員
矢野 保美 委員
山野 修平 委員（五十音順）
- 傍聴者：2名

1 開会

(1) 中央図書館長の挨拶

- ・ 先日の新聞に、大学生の読書に関するアンケート結果の記事が出ていた。1日の読書時間が0分の大学生が53%もいて、0分の大学生が5割を超えたのは調査開始以来初めてということであった。併せて電子媒体の売れ行き額が、紙媒体の売れ行き額をはじめて超えたという記事も出ていた。
- ・ これらは人が書物を読まなくなるという、図書館にとって大変ネガティブなデータであり、今後一層の図書館の責任の重大さを感じているところである。本日はたくさんの方の貴重な御意見をお願いしたい。

2 報告事項

事務局から、資料に基づき、以下の項目について報告した。

(1) 平成29年度読書推進事業について

ア 平成29年度子ども読書の日記念事業

これまで子ども読書の日である4月23日を中心として2週間実施して来たが、29年度は4月の1カ月間を子ども読書月間として、子どもたちが読書に親しむ様々な取り組みを実施した。

(ア) 0歳からの絵本コンサート

- ・ 堀川音楽高校との連携事業。乳幼児連れだと演奏会になかなか行けないが、そのような方々にも気軽に文化・芸術に触れていただけるよう、4つの中央図書館で開催した。
- ・ どの会場も100人近くの参加者で賑わい、参加者からはこのようなイベントを待っていたという感想が何件も寄せられた。また演奏者の高校生には、急に

泣き出す赤ちゃんに驚きながらも、聴衆の息づかいを間近で感じることができ良い経験になったと感想をもらった。

(イ) 子どもの本のブックリサイクル

- ・ 中央図書前のピロティで子どもの本のブックリサイクルを実施した。前年度に引き続き大変好評だった。

(ウ) 第3回京都市図書館ビブリオバトルティーンズ大会

- ・ 中高生を対象としたビブリオバトルティーンズ大会を実施した。

イ 平成29年度読書週間記念事業

(ア) 京都市図書館ビブリオバトル大会

- ・ 春の子ども読書の日記念事業として開催したビブリオバトルはティーンズを対象としていたが、秋の読書週間記念事業ではすべての年齢層を対象として、ビブリオバトル異世代交流戦を実施した。
- ・ 4つの中央図書館で予選会、中央図書館での決勝戦を開催し、様々な年代や立場の人が本を通して交流を深めた。
- ・ 余談だが、伏見中央図書館では予選参加者からの要望に応え、同館単独のビブリオバトル大会を企画したところ参加希望が多く、3月3日から4日の2日間に渡って開催予定である。

(イ) 司書のかくし玉

- ・ 昨年度の図書館司書134名のおすすめの本を紹介する「司書のイチオシ！」の第2段として本年度は「司書のかくし玉」を実施した。
- ・ 各図書館から大人向け、子ども向けの本を1冊ずつ紹介している。

(ウ) 読書絵はがき展

- ・ 平成14年度から続いている読書絵はがき展を実施し、各図書館で応募作品を掲示した。

(エ) 児童文学作家いとうみく氏講演会「いとうみくさん作品取扱説明書」

- ・ 例年京都市子ども文庫連絡会との連携で児童文学作家の講演会を実施しているが、本年度は子ども達によく読まれているいとうみくさんをお招きした。
- ・ 児童文学作家になった理由や作品についての思いを語られ、参加者は引き込まれるように聴いていた。

(2) 平成30年度子ども読書の日記念事業

- ・ 30年度も29年度に引き続き4月の1カ月間を子ども読書月間として様々な事業を実施する。

ア 0歳からの絵本コンサート

- ・ 本年度大変好評であった0歳からの絵本コンサートを堀川音楽高校との連携のもと引き続き実施する。

イ 子どもの本のブックリサイクル

- ・ 子どもの本のブックリサイクルを引き続き実施する。

ウ 本のもりコーナー（PR事業）

- ・ 本のもりのPR事業は、30年度特に力を入れて行きたいと考えている。
- ・ 本のもりは、赤ちゃん編、幼児編、小学校低学年編、小学校中学年編、小学校高学年編、中学校編という6つの年代別ブックリストであるが、そのうち小学校

高学年編と中学校編の改訂版を4月に発行する予定。

- ・ 改訂に当たっては京都市子ども文庫連絡会にもプロジェクトに加わっていただき、推薦図書を選定を行った。
- ・ 中学生から読書離れが始まる傾向があるので、本に興味を持ってもらうよう、今回改訂される本のもりの中学校編を京都市立中学校・総合支援学校の新中学1年生全員に配布する。
- ・ どのようにすれば「本のもり」に掲載されている本を児童に手に取ってもらえるか考え、京都市図書館で考案した「絵本 de かるた」を本年度のPTAフェスティバルで実施した。絵本を取り札に見立てて、絵本を連想させる読み札を読み上げ、子どもたちが本を取り合う競技で、子ども達は自分の取った本を読みたがるなど本に触れるきっかけ作りができた。

エ おたのしみ会等（全図書館）

(3) 京都市図書館の平成29年度の取組状況について

ア 図書館設備の改修

(ア) あんしん・かいてき図書館トイレの整備

- ・ 平成26年3月に策定された「第3次京都市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちが快適にトイレを使えるよう、5か年計画でトイレの改修に取り組んでいる。
- ・ 本年度は、岩倉図書館、下京図書館、南図書館の3館で洋式化などの修繕を実施した。

(イ) 地域図書館の児童コーナー整備事業

- ・ 乳幼児の保護者の方々に子どもと気兼ねなく過ごしていただけるよう、トイレと同様5か年計画に基づき、児童コーナーの整備・充実を進めている。
- ・ 本年度は、岩倉図書館、下京図書館、南図書館、向島図書館の4館で実施し、各館の実状に応じて、書架の増設や照明の改修、タイルカーペットの更新などを実施した。

イ 利便性向上に関する主な取組

(ア) 烏丸駅に返却ポストを設置

- ・ 四条烏丸の阪急烏丸駅に11月から図書館の返却ポストを設置している。利用が順調に増えてきており、認知度が上がって来ていると思われる。

(イ) 府立図書館との相互返却試行実施

- ・ 府立図書館との相互返却を11月から試行実施しており、利用者が増えている。返却しやすくなったと利用者から好評である。

(ウ) ヒアリンググループの設置

- ・ 3月1日から各図書館にマイクにより音声を人工内耳に直接伝える卓上型ヒアリンググループシステムを配備している。耳の不自由な方も周囲の音に惑わされず、正確に聞き取っていただける装置であり、図書館カウンターでの利用者とのコミュニケーションに役立てていきたい。

(エ) 隣接自治体との相互利用

- ・ 宇治市・大津市との相互利用も2年目に入り、徐々に利用が増えている。

ウ 出前事業専用車両「青い鳥号」

エ 図書館資料の有効活用

(ア) ブックリサイクル

- ・ 27年10月から不用となった蔵書の有効活用を目的に実施している。毎年1万5千冊程度の資料を利用者に譲渡しており、定着してきている。

(イ) 雑誌付録の活用

- ・ 今年度から雑誌付録の有効活用を開始している。ブックリサイクルの際に配布したり、スタンプラリー等の景品としたりする方法で、1月末時点で本年度582点の付録を有効活用している。

(4) 平成30年度新規事業等について

ア 4中央図書館における土曜夜間開館実施

- ・ 28年度は5月から8月まで、29年度は6月から9月までのそれぞれ4か月間、4中央図書館の土曜日の開館時間を午後7時まで延長し、夜間開館を試行的に実施して来た。
- ・ 2箇年の試行実施の結果、5月・6月・9月は平日の夜間開館ほど利用は増えず、7月・8月は平日の夜間利用を上回る結果となったため、予算を伴う夜間開館の費用対効果を鑑み、7月・8月の2か月、土曜の開館時間を通常の午後5時までから、午後7時まで延長する形で平成30年度から本格実施することとなった。

イ 木のぬくもりのある図書館づくり事業

- ・ 「京都府豊かな森を育てる府民税」市町村交付金を活用し、木のぬくもりを感じながら快適に過ごせる空間の整備を29年度に岩倉図書館と山科図書館の2館で実施している。
- ・ 岩倉図書館ではウッドデッキやベンチなどの整備、山科図書館ではベンチの整備を実施している。
- ・ 30年度は同交付金を活用し、伏見中央図書館の閲覧スペースや授乳スペース、対面朗読室の整備を行う予定である。

ウ 「明治150年・京都のキセキ」プロジェクト関連事業

- ・ 今年は明治150年の節目の年であり、京都市全体で1月から様々な取組を行っており、京都市図書館でも関連事業の実施を予定している。
- ・ その第1弾として、3月の1か月間、4つの中央図書館での関連図書の特別展示をスタートしている。4月以降も随時全館で取り組みを行っていく予定である。

3 報告事項に関する質疑応答

意見： 京都市図書館では、市民ボランティアの方々が本の整理やOPACの操作説明などを行っている。また、ボランティアサークルが図書館でおたのしみ会を実施している。そのような方々もボランティアの立場で図書館をよりよくしたいと考えていると思うが、意見などを話し合う交流会は実施しているか。

回答： すべての図書館で多くのボランティアの方々に運営に御協力いただいております。大変感謝しています。各館に応募いただくこともあり、一同に会しての交流の機会はなく、また館の事情により交流会を実施していない館もあるが、ボランティアの方々からは、普段の活動の中で御意見をいただいております。各館で参考にさせていただ

ている。

意見： 小中学生の図書館の利用率のデータはあるか。

回答： 今手元にはないが年代別の利用状況は把握している。小学生までは利用はあるものの、中高生の利用は少ない印象である。

意見： 子どもの利用を増やす取り組みは行っているか。

回答： 「京都市子ども読書活動推進計画」に基づき、京都市教育委員会全体で取り組んでいる。京都市図書館も同計画に基づき、子ども読書の日記念事業の行事を行ったり、全館でおたのしみ会や赤ちゃんを対象とした行事を行ったり、中学生を対象としたティーンズコーナーの充実を図ったりしている。また、学校とも連携し、学校司書の技量を高めるための講習会に協力したり、授業に使える本のリストづくりを行ったりしている。

意見： スマートホンの普及も影響しているのであろうが、大学生の読書の習慣がだんだん希薄になっている印象がある。小さな子どもたちを対象とした事業に力を入れているようだが、京都には多くの学生が暮らしており、大学生を取り込んでいくことも必要であると思う。

意見： 前回の図書館協議会で外国人により読み聞かせイベントを行う予定といった話が出ていたが、事後報告はありますか。

回答： 中央図書館で10名以上の日本語学校の留学生の方々に協力いただいて実施した。近隣の児童館の子ども達が参加し、様々な国の言葉で話したり、歌ったりして大変賑やかなイベントとなった。

意見： 子どもを対象とした事業が多い印象だが、そこに自然な形で子どもと高齢者が関わられるようなことがあれば良いと思う。高齢者の居場所として図書館は重要であると思うが、高齢者の方が図書館を利用されている率はどの程度か。

回答： 図書館カードの登録率は高くないが、大変多くの方に来館いただいている印象である。毎年中央図書館で京都市文庫連絡会の方々に御協力いただき、子どもを対象として京都のわらべうたを楽しんでもらうイベントを実施しているが、その担い手の多くは高齢の方々である。また、来年度はシニアを対象としたサービスを全館で取り組んでいくよう計画している。シニアの居場所づくり、シニアに活躍していただける場の提供についても考えていきたい。

意見： 絵本コンサートで高校生が演奏したり、ビブリオバトルに中学生が参加したりする報告があったが、中高生が実際に読み聞かせするようなことがあれば図書館に関わるよい機会になると思う。

回答： 例年、学校から生き方チャレンジ体験の授業で派遣される中学生を受け入れているが、その中で図書館司書から実技指導を受け、読み聞かせを行うこともある。また、中学生が授業の中で近隣の幼稚園・保育園に出向き、読み聞かせを行うに当たり、図書館司書が事前指導をすることもある。

4 協議事項

事務局から図書館の役割・利用促進に関連した以下の事項について説明した。

(1) 図書館に期待する役割、多様なニーズへの対応

- ・ 図書館にとって資料の貸し出しは重要な役割であるが、それ以外にもあらゆる世

代の居場所となる図書館や課題解決型図書館等、様々な役割があると思われる。今後図書館にやって欲しいこと、図書館の満足度が高まる取り組みとはどのようなことか等、御意見を頂戴したい。

(2) レファレンスサービスの浸透に関する提案

- ・ 図書館へのニーズのひとつにレファレンスサービスがある。年々件数は増加しているものの、まだサービスの認知度は高くない。どのようにしたら更にレファレンスサービスを利用していただけか御意見をいただければありがたい。
- ・ なお、現在は、レファレンスカウンターの全館設置、オンラインデータベースの全館設置、右京中央図書館へのインターネット端末設置、中央図書館でのパスファインダーの配布、ホームページでのレファレンス事例や役立つリンク集の公開等を実施している。

5 協議事項に関する質疑応答

意見： 図書館は、赤ちゃんから高齢者にいたるまで、幅広い対象へのサービスを求められており、公共図書館としてどうあるべきかを考えるのはなかなか難しいと思う。

現在、図書館は高齢者から居場所として求められているようだが、今の高齢者は図書館の最盛期に若い時代を過ごされた方々なので、50年後も同じように図書館が求められるかどうかは、今の若い人々の図書館利用に関わる問題であると思われる。

意見： 読み聞かせは図書館司書でない市民ボランティアの方もされることであり、コミュニティセンターなどでも出来る。図書館が必要な存在になるにはどのようにすればよいのか。専門職である司書でないとできないこととはどのようなことなのか。若い人が図書館を使わないということは今の図書館に何が足りないのか。図書館が何をすると魅力的になるのか。検討すべき課題が様々にある。

意見： 小さな子どもがはじめて自分で図書館カードをつくる際に独り立ち出来たことをお祝いしてあげるようなことをすれば子ども達はとても喜ぶと思う。

意見： 中学生はあまり図書館へ行かないが、わざわざ図書館カードを作らないといけないのがハードルになっていると思う。生徒手帳が図書館カードの代わりになったり、入学のときに全員に配布したりできないか。また常々携帯しやすいようカードのサイズは生徒手帳に入るサイズであればよいと思う。

回答： 図書館カードは以前のラミネートで挟む形から、プラスチックのカードに変更しており、以前より小さくなっている。

意見： 大学生は論文をよく読むが、公共図書館には論文をほとんど置いていないので今のままでは大学生は来ないと思う。電子図書館サービスを導入すれば、膨大なデータベースの中からほぼすべての論文が検索・閲覧できるようになり大変良いと思う。また電子書籍だとタブレットなどにダウンロードしてどこでも読むことができ便利になる。

意見： 予算の関係から公共図書館が論文をそろえるのは難しいと思うが、中高生が図書館を利用しない理由には読みたい資料がないということもあるのではないかと。利用してもらうには読みたい資料があることが大前提である。どのような資料を揃えるのか決め、充実し、それを発信していくことが大事だと思う。

意見： 京都は歴史の宝庫であり、どこへ行ってもその地域の歴史がある。しかしそこに

住んでいながらその歴史を御存知ない方も多い。図書館へ行けばその地域の関連資料がすべて置いてあり、歴史がすべて分かるようにすればどうか。

意見： 高齢者の方がその地域の郷土資料について学ぶコーナー等があってもよいと思う。

意見： レファレンスサービスの理解が進んでいないのは、レファレンスという言葉が浸透していないこともあると思う。子どもたちは学校で図書館の利用の仕方を学ぶ機会もあると思うが、そのような機会にレファレンスサービスが利用できるということも知らせてもらうようにできないか。また先日、区役所がまちづくりの取組の一環として図書館の見学会を行っていたが、そのような機会を活用して、図書館では多くの資料が自由に使え、資料について職員に相談できるということをお知らせすれば、レファレンスサービスを広める良い機会になるのではないか。

意見： シニアの居場所をどうするかはこれからの大きな課題であると思う。本のもりは子ども達に司書が本を紹介する取り組みだと思うが、これと同じように高齢者の方にもよい本を伝える機会があってもよいと思う。例えば新聞に掲載される書評を活用するのもよいと思う。

意見： 図書館というと書籍と思われがちであるが、視聴覚の資料も数多く所蔵している。今はあまり一般では利用されないビデオカセットも相当ある。京都は元々映画の街であるが、映画の名作等、古い視聴覚資料を有効に使うのも、そういう時代を生きて来た高齢者の関心を引く取り組みが出来るのではないか。

意見： シニアに本を薦める取組はよいと思う。図書館でシニアの方が調べものをしたり、昔の遊びなどを今の子どもたちに伝えたりすることで活躍できれば良いと思う。高齢者の方が何かしら役割をもって社会とつながりを持てる場を持つことは大切なことであるが、図書館がそのような場となればよいと思う。

意見： 今日は沢山の課題が示された。大きく分けると2点。ひとつは公共機関として、支援の必要な人に何が出来るか、社会にどのような役割を果たすのかという公共機関としての責任としての課題。もう一つは中高生を中心として図書館に魅力を感じていない人に、魅力的な、役に立つ機関として、発展的に存続するためにはどうすればよいかという課題である。一度に何もかもというのは難しいと思うが、何か一つ具体的なところから実施して、利用者から魅力的だと思ってもらい、また生活を支援してくれていると実感を持ってもらって、次の取組へと進めて行ってほしい。是非とも様々なことに取り組んでいただけたらと思う。

回答： 意見をいただいたので、できるところから、少しずつであるが実現していきたい。

6 事務連絡

7 閉会